

自己評価表

(愛媛県立西条高等学校)
学校番号(9)

教育方針	人格の完成を目指し、国家及び社会の有為な形成者として、文化の創造と発展に寄与する人間を育成する。	重点目標	グローバルな視点を持ち、新たな価値を創造する人材の育成 ～ワクワク感や知的好奇心を喚起し、一人一人を伸ばす教育の推進～
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路実現	1 自分を信じて、粘り強く前に進む力を育成する	進路目標の実現に向けて努力を続ける生徒の育成 A : 100~80% B : 79~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 39%以下	B	早期に進路を決定したい生徒が増えている一方で、新課程入試によるさまざまな変更にも関わらず、進路実現に向けて最後までやりきる姿勢の生徒が増えているように感じる。	早期に進路決定した生徒に対して、目標を持たせて継続的に学習に取り組ませる工夫をする。また、早期の進路決定者が増加傾向にある中、一般入試に臨む生徒に対して進路課、担任、教科担当で情報を共有して細やかな支援をしていきたい。
		国公立大学、関関同立・MARCH等の有名私立大学合格者数130名以上 A : 130名以上 B : 129~120名 C : 119~110名 D : 109~100名 E : 99名以下	A	総合型、学校推薦型選抜入試による合格者が増加傾向にある。特に私立大学では、総合型選抜入試で課題研究の内容を基に、志望理由書を作成したり、プレゼンテーションを課す入試に挑戦した生徒の合格が例年と比べて多かった。	今後も総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試の受験者が増える予想される。個々の生徒に対して十分な指導ができないまま受験に臨ませることがないように、担任の負担の軽減、教員の指導力向上を含め、学校全体での体制づくりに取り組むたい。
		旧帝大・早慶等の難関大学および医学部医学科合格者数10名以上 A : 10名以上 B : 9~8名 C : 7~6名 D : 5~4名 E : 3名以下	D	慶應義塾大学や関西学院大学等の総合型選抜入試による合格者数が例年と比べると増加している。医学部医学科希望の生徒の進路実現は厳しい状況である。	難関大学を目指す生徒の育成には、1年次からの意識付けが必要である。難関大学に関する情報提供や大学に在籍する卒業生との座談会、そして難関大を目指す生徒たちの仲間作りなど、生徒の関心・意欲が高まるような工夫をしたい。
		就職内定率100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	A	就職希望者9名全員が希望する就職先に就職できた。	生徒と企業の間にミスマッチが起こらないよう、今以上に様々な機会を捉え、生徒の就職活動を充実させていく。
資格取得		卒業時に全商3種目1級取得者20名合格 A : 20名以上 B : 18名以上 C : 16名以上 D : 14名以上 E : 10名以下	A	・今年度の3年生の全商3種目1級取得者は24名であった。また、日商簿記2級の合格者は3年生4名、2年生2名の合計6名が合格した。	家庭での学習時間を現状より、1時間以上確保することで、目標を達成できる。部活動と勉強の両立を図る。
課題研究	2 課題を発見し、科学的に考察する力を育成する	課題研究に主体的に取り組む生徒の育成 A : 100~80% B : 79~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 39%以下	A	生徒の自己評価で、98%の生徒が肯定的な評価になっている。	課題研究の内容の更なる向上に向けた指導やアドバイスをすることにより、生徒の意欲を高める。
		課題研究を通じた生徒の研究スキル向上 A : 100~80% B : 79~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 39%以下	B	学期ごとに活動のルーブリック評価を行っている。このうち、「科学的に探究する力」の達成度は3学年3観点の平均評価が78%であった。	課題研究について、生徒の研究スキルが向上する指導方法の研究に努めるとともに、教員間で共有する体制を整える。
		課題研究 各種コンテスト応募数100以上 A : 100以上 B : 99~90 C : 89~80 D : 79~70 E : 69以下	A	自然科学系 105本 社会科学系 145本 計 250本	コンテストへの応募の環境が整ってきたことからさらに応募数が増えた。今後は、作品の質の向上に力を入れていきたい。
		課題研究 各種コンテスト入賞数30以上 A : 30以上 B : 29~20 C : 19~10 D : 9~5 E : 5以下	A	自然科学系 26本 社会科学系 10本 計 36本 全国総文祭奨励賞 中国・四国・九州地区理数科高等学校理数研究発表大会優秀賞 他	大学等と連携することで、教員の課題研究の指導スキルの向上に努めるとともに、生徒の課題研究の質の向上を図る。入賞も全国規模の大きい大会の入賞を目指す。

授業改善	2 課題を発見し、科学的に考察する力を育成する	分かりやすく力が付く授業の実践 A : 100~80% B : 79~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 39%以下	A	学校訪問研修を機に教員が授業改善に取り組んだ結果、学校評価アンケートでは、授業が分かりやすく力が付くと感じている生徒の割合が90%となり、前年よりも高い評価を得た。	校内の研究授業や授業相互参観を通して、授業改善に関する情報交換および情報共有を図る。また、進学指導研究推進プログラム等を活用し、他校での研修にも積極的に参加する。
		ICTを活用した授業の実践 A : 100~80% B : 79~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 39%以下	A	教室に配備されたプロジェクター機器や、Microsoft365 for Education を用いた授業など、ほとんどの教員がICTを活用した授業を行うことができている。また、出席訂正の生徒に対するオンライン授業の実践も進んでいる。	Microsoft Teams, Formsなどの教育支援システムをより活用し、家庭学習課題など授業以外の場面でもICTを活用していくようにしたい。そのために、教科担任への研修や手順書の充実と並行し、具体的な手法の共有を図りたい。
読書		夢中になれる本との出会いを導く図書館教育 A : 100~80% B : 79~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 39%以下	D	達成率は、1年生44.0%、2年生42.1%、3年生49.8%、学校全体45.5%であった。	・読書に関するホームルーム活動を年1回以上実施するとともに、図書委員会の活動をさらに活性化し、各クラスへの読書啓発を行う。 ・「朝の読書」に対する教員の協力を求める。
表現力	3 他者と協働し、新しい価値を創る力を育成する	生徒のコミュニケーション能力やプレゼン力の向上 A : 100~80% B : 79~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 39%以下	A	学期ごとに活動のルーブリック評価を行っている。このうち、「他者と協働する力」の達成度は3学年2観点の平均評価が83%であった。	課題研究発表会やSSH事業を通じてプレゼン力や質疑応答力の向上を図る教育活動を展開する。
		課題研究発表および体験発表者数100名以上 A : 100名以上 B : 99~90名 C : 89~80名 D : 79~70名 E : 69名以下	A	コロナ対策が5類に移行し、ステージの発表や対外での活動が大幅に増えた。延べとして一部に偏ることなく多くの生徒に発表機会を与えることができた。	大会やコンクールを精選し、効率よく効果的な活動を目指していきたい。
創造力		生徒によるイベント企画件数10件以上 A : 10件以上 B : 9~8件 C : 7~6件 D : 5~4件 E : 3件以下	C	生徒会によるイベント企画件数なので、全校生徒に範囲を広げるともう少し数は増えるかもしれない。	色々なアイデアを生み出させる雰囲気や、「やりたいたい」を形にできる協力的体制など、いい学校の雰囲気づくりを目指したい。
地域貢献	3 他者と協働し、新しい価値を創る力を育成する	地域に貢献する活動に積極的に取り組む生徒の育成 A : 100~80% B : 79~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 39%以下	A	有法子やSSHでの西条市や地元企業との連携、文化部を中心とした各種地域イベントへの賛助出演等、既に地域に貢献する活動を行っており、積極的に取り組む生徒の育成は、十分に行われている。	左記の内容は、西条高校の特徴でもあり、また、よさでもある。今後もしっかりと継続していきたい。
		地域と連携したボランティア活動参加者数200名以上 A : 200名以上 B : 199~140名 C : 139~120名 D : 119~100名 E : 99名以下	D	特活課で対応しているヤングボランティア、SSHで対応している科学博物館でのボランティア、JRC部の方で実施されたものによる合計が、かろうじて100名を超えるくらいであった。	勉強や部活動などの学校活動に多くの時間を割いていることもあって、ボランティア活動に興味があっても参加できないという生徒も多いと思うので、声掛けを丁寧にし、参加者数を増
部活動	4 学校の情報を積極的に発信する	県総体出場者数200名以上 A : 200名以上 B : 199~140名 C : 139~120名 D : 119~100名 E : 99名以下	B	今年度の上場者数は、196名であった。最大目標である200名にはあと一歩であったが、昨年度の上場者数161名から、大きく前進した。	少子化が進んで部員の確保の難しい時代であるが、西条高校の運動部は、ほとんどの部が人数的に充実しており、練習にもよく励んでいるので、今後の結果に結びつけてほしい。
		県高文祭出場者数100名以上 A : 100名以上 B : 99~40名 C : 39~20名 D : 19~10名 E : 9名以下	A	143名の上場であった。これは松山南高校の199名、今治西高校及び松山商業高校の152名に次ぐ数字である。特徴的なのは、自然科学部門55名の参加人数で、2番目に多い松山南の倍に近い数字だ。	ここにもSSHの成果が見られるし、運動部・文化部ともによく頑張っているといえるので、継続していきたい。
情報発信	4 学校の情報を積極的に発信する	学校の魅力を積極的に伝えるホームページ・Instagramの更新	A	ホームページ更新回数350回。教職員全体で迅速な情報発信に努めた。また、公式Instagramでは投稿200件以上、フォロワー700人→1,800人超えに増加。情報発信の充実を図ることができた。	ホームページとInstagramの情報発信により、老若男女(受験希望の中学生含)問わずの受信を図ることができるため、開かれた学校づくりの観点からも、より一層の更新に努めたい。
業務改善	5 職場環境の整備を行い、やりがいを感じて働くことができる環境を目指す	仕事にやりがいを感じるとともに、「ノー残業デー」を意識するとともに、ワークアズライフを目指す。	B	ペーパーレス化やメッセージ、自動採点システムの活用により、在校等時間の短縮に努めることができた。	「ノー残業デー」の充実を図るとともに、教職員一人一人のライフワークバランスを意識した職場環境づくりを目指す。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。